

【プレスリリース】

**第3回国連防災世界会議 東北被災地の学生100名が世界に発信
特別ゲスト 安倍昭恵首相夫人**

2015年2月

【概要】

一般財団法人教育支援グローバル基金（東京都・渋谷区）は、仙台にて開催される第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムの一環として「東北、そしてアジアの若者の力 - 被災した若者たちの声」を、2015年3月15日（日）に開催いたします。東日本大震災により被災し、家族を亡くしたり家を失った学生たちが、自らの体験から考えた防災の重要性について語り、未来の災害に備えて求められる防災教育のあり方を提言として発表します。また、フィリピンの台風30号（台風ヨランダ）により被災した若者を招聘し、自然災害によるダメージの当事者として、今後アジアの若い世代が連携することの重要性も発信していく予定です。会場には約100名の東北の学生たちが集まり、安倍昭恵首相夫人も特別ゲストとしてご参加の予定です。

【ご取材について】

本セッションにおける、意欲ある東北被災地の学生たちの、生の声をご取材いただければ幸いです。ご取材をご希望の場合には、お手数ですが当財団ウェブサイトからご登録をお願いいたします（ウェブサイト：<http://beyond-tomorrow.org/program/bosai-sendai/>）。学生への個別取材をご希望の方、セッション前日までの活動の様様のご取材をご希望の方は、事前に下記問い合わせ先までご相談ください。

問い合わせ先 一般財団法人教育支援グローバル基金
電話 03-5453-8030 電子メール：info@beyond-tomorrow.org

第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラム ビヨンドトゥモロー特別セッション 「東北、そしてアジアの若者の力 - 被災した若者たちの声」	
日時	2015年3月15日（日） 16時～18時（15時30分開場）
会場	TKP ガーデンシティ仙台勾当台
概要	16時開始（15時30分開場） - オープニング（5分） - ご挨拶（5分） - ビヨンドトゥモローにおける防災に関する取り組みについて（10分） - 学生スピーチ（10分） - 学生プレゼンテーション「震災の教訓から考える、アジアの防災」（15分） - パネルディスカッション（45分）「災害を経験した若い世代が、当事者として取り組む防災」 - ご講評（5分） - 映像リフレクション（10分） ※スケジュールは変更となる可能性があります。
参加者	岩手県、宮城県、福島県出身の高校生・大学生約100名及びその他一般聴衆
特別ゲスト	安倍昭恵首相夫人
主催	一般財団法人教育支援グローバル基金 ビヨンドトゥモロー
支援	バンクオブアメリカ・メリルリンチ
協力	国際交流基金マニラ日本文化センター

【学生運営メンバー】

本プログラムに参加する7名の学生運営メンバーの全員が、この1年間、ビヨンドトゥモローの活動に参加し、防災のあり方について考えてきました。日本人メンバーたちは、3月に広島を訪問し、平和教育のあり方について学び、いかに過去の惨事を後世に語り継いでいくかについて考えました。そして2014年夏にはフィリピン・レイテ島を訪問し、台風ヨランダによって被災した地域でフィリピン人学生と共にフィールドワークを行い、今後、アジアの防災のために求められる施策について提言を作成した経験を持っています（2014年夏フィリピンの台風被災地での活動の様子：<http://beyond-tomorrow.org/program/past-program/sg2014/asia/>）



菊地 将大 (きくち まさひろ) 【Project HOPE 特別奨学生】

筑波大学 社会・国際学群 (岩手県立高田高等学校卒業)

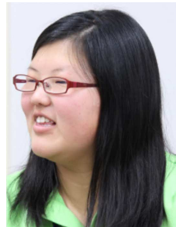
陸前高田市で被災し、両親を亡くす。高校では生徒会長としてリーダーシップを発揮、震災後には、第14代高校生平和大使としてスイスの国連欧州本部を訪問した。震災で世界より多くの支援が寄せられたことから国際連帯の重要性を感じ、世界に防災の必要性を発信していくことが日本の今後の使命であると考えている。将来の夢は、地方自治に携わり、被災地の復興を先導すること。特に、多くの人が職場を失い、経済的困難にあえぐ状況に強い危機感を覚え、雇用問題の解決に貢献したいと考えている。日本にとどまらない多角的な視野を持つことが重要だと考えている。



黒澤 永 (くろさわ はるか) 【船橋力特別奨学生】

獨協大学 外国語学部 (福島県立会津高等学校卒業)

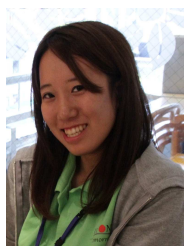
震災後、自身が通う高校が避難所となり、食糧分配や避難者のケアの活動に参加。食料や生活物資の分配に混乱が起きているのを目撃し、同様のことが世界の貧しい国でも起きているのでは、と考えるようになる。将来、国連職員となり、貧困地域の専門家として食糧分システム構築に尽力するのが夢。大学では、貧困問題や格差について学んでおり、アジアでの諸問題や歴史を自分の目で確かめて、将来の夢に繋がるような学びにしたいと考えている。



西城 国琳 (さいじょう こくりん)

拓殖大学 国際学部 (宮城県気仙沼高等学校卒業)

中国・大連生まれ。中学校1年生の時に来日。以来、南三陸町に住む。震災で家を失う。2013年にはTICAD Vのイベントに参加し、被災地の状況を伝えるためブースを出展し、アフリカ各国の首脳に震災支援の感謝の気持ちを伝えた。その後、ルワンダ、ガーナなど海外へも積極的に足を運び、アラビア語やスワヒリ語も学んでいる。震災での経験を通じ、アフリカなど発展途上国で教育等を通じて経済成長を促し、東北発のリーダーとして貧困削減に貢献したいと考えている。アフリカや中東の国々に興味を持つ一方で、愛する故郷である三陸の復興に貢献できるような活動にも携わりたいと思っている。



藤井 理子 (ふじい りこ) 【佐藤輝英特別奨学生】

早稲田大学 政治経済学部 (岩手県盛岡第一高等学校卒業)

震災により祖父を亡くし、思い出の土地や人とのつながりが奪われる経験をする。将来は、被災地域の住人の意見を政治に反映させることのできる政治家になることが夢。マレーシアでの留学経験から、震災から学んだことを広く発信し、地震災害について理解してもらうことが重要と考える。将来は東南アジアの人々の防災意識を高める活動に取り組み、今後起こり得る地震災害の被害を軽減させることが目標。



フランシスコ・バングイス

フィリピン大学ヴィサヤス・タクロバン校 コミュニケーション・アーツ専攻

レイテ島ダガミ出身。将来、両親を経済的に支援したい思いのもと、高校の同級生の多くが大学進学しない中、フィリピン大学に進学。そこで、2013年にフィリピン大学ヴィサヤス・タクロバン校ステューデント・カウンシルの会長に選出される。また同年3月には、キズナプロジェクトに参加し、フィリピンの青年大使として岩手県久地市を訪問。台風ヨランダの後、学生会会長として、被災した学生などの支援を主導する。災害を経験したことから、タクロバンの若者が街の復興に貢献できるよう促していきたいと考えている。キズナプロジェクトに参加した経験を活かして、ビヨンドトゥモローの活動に参加し、フィリピンと日本の架け橋になりたいと願っている。



チャールズ・マルナラン

レイテ島職員 (フィリピン大学ヴィサヤス・タクロバン校 心理学専攻卒業)

レイテ島タクロバン市出身。経済的に厳しい中、家族が支えて大学まで卒業することができたというバックグラウンドを持つ。大学在学中には、ステューデント・カウンシルの議員に選出される。また、大学内外の様々な団体にも参加。2013年には、日本の外務省が主導する JENESYS 2.0 プログラムの参加者に選出され、京都を訪問。フィリピンの青年大使として活動。台風ヨランダの後故郷が荒廃した姿を見て、困窮している人を支援することで社会に貢献し、若者を支援することで復興を促進させたいと考えるようになる。ビヨンドトゥモローの活動では、災害の辛い経験だけでなく、故郷の歴史や美しさを伝えたいと考えている。



ジェッサ・ラピラップ

キャピトル大学4年生 (英語専攻)

カガヤン・デ・オロ (ミンダナオ島) 出身。数年前に巨大台風で被災した経験を持つ。国際交流基金マニラセンターが進める防災教育プログラムにも参加。翻訳の経験や、ミンダナオ島での平和構築に関する研修に参加した経験を持つ。ジャーナリズムと歌唱に強い興味を持っている。

◆プログラム全体の流れ◆

日付	場所	活動
3/12 (木)	東京／東北	(午後) フィリピン学生到着、オリエンテーション (夜) ウェルカムディナー、仙台へ移動
3/13 (金)	東北	(午前) 東京から気仙沼へ移動 (午後) 陸前高田、気仙沼、南三陸でのフィールドワーク (夜) 海鮮の夕食、温泉など
3/14 (土)	東北／仙台	(午前) 仙台へ移動 (午後) 多賀城高校訪問、学生との交流 (夜) 提言作成、リハーサル
3/15 (日)	仙台	(午前) 提言作成、リハーサル (午後) 国連防災世界会議 パブリックフォーラム
3/16 (月)	東京	(午前) 東京へ移動 (午後) ディズニーランド (夜) フェアウェルディナー、リフレクション、解散

◆BEYOND Tomorrow／ビヨンドトゥモローとは◆

教育支援グローバル基金は、東北被災地の若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長することを支援することを目的とし、包括的なリーダーシップ支援事業「ビヨンドトゥモロー」を運営しています。2011年より毎年「東北未来リーダーズサミット」を、また、毎夏に「ビヨンドトゥモロー夏季グローバル研修」を開催、被災地からリーダー候補を輩出するための取り組みを行う他、大学進学のための奨学金プログラムを提供しています。

以上